

## II 審議の対象となった番組

委員会が審議の対象としたのは、テレビ東京が2011年1月25日午後7時から放送した情報バラエティー番組『ありえへん∞世界』のなかの約18分のコーナー「ありえへんへき地・第2弾、南大東島に潜入取材」である。

約1時間の番組全体は戯画的な関西弁風のナレーションで進行するVTR部分と、それを話のネタに交される芸能人・タレントのスタジオトークによって構成されているが、問題となったのはこの番組中のメイン企画「南大東島の年収1000万円以上の農家たち」である。(以下、文脈に応じて「本件番組」ともいう)。

\*

本件番組は冒頭、南大東島がへき地等級でもっとも不便な5級（沖縄県職員の給与に関する条例による）という辺鄙な地であることを紹介し、ナレーションが「沖縄本島から東へ360キロも離れた、どえらい場所にある孤島」「羽田からおよそ4時間かけて那覇空港に到着し、那覇・泊港からフェリーで15時間かかる」「飛行機やったらニューヨークまで行ける時間や」等々と説明する。

これは、「はじめに」で最初に示した演出サンプルである。ナレーションは70分で行ける定期航空路があることを隠しているのも、スタジオからは狙い通り、「外国みたい」「まさにへき地」と、驚きの声が上がっている。

スタジオ出演者は「豪華客船か」と期待するが、ロケ・ディレクターが乗り込んだのは貨物兼用の普通の客船で、15時間かけて到着すると、背の高いクレーンに吊られたゴンドラが接近してくる。荷物のようにそのゴンドラに載せられ、運ばれるという「ありえへん」上陸シーンが映し出される。島の海岸は断崖絶壁ばかりで、船が横付けできないからだという。

スタジオからは「こりゃおかしい」と笑う声が聞こえる。画面上には「東京から19時間 謎のへき地 南大東島へ潜入」という字幕が出つづけている。

番組はここから南大東島の4つの「ありえへん」エピソードを紹介していく。その最初に登場するのが、今回、問題となったエピソード「へき地の農家（南大東島の年収1000万円以上の農家たち）」である。ちなみに、他の3つは「へき地の中毒グルメ（脂の乗った深海魚の話）」「へき地の絶滅危機動物（純血種が少なくなった大東犬の話）」「へき地の年越し（八丈島からの開拓団と沖縄の食文化が混ざった正月料理の話）」をそれぞれVTRで紹介する、というものだった。

\*

画面はサトウキビ畑とハーベスタ（大型農業機械）を映し出し、つづいてハーベスタから降りてきた男性がインタビューに応じる。この間、彼が顔に手を当てた瞬間、左手にはめた高価そうな金時計が見える（これが「はじめに」で触れたロレックスの

腕時計だ)。質問に答える男性は「年収1000万円を超える農家が、自分を含めて島には150から200人はいる」「サトウキビ農家は国から補助金をもらっているので、普通の農家より儲かる」という趣旨のことを語る。

画面は図解に切り替わり、サトウキビを製糖会社が買い上げる1トン当たり5000円という価格と、さらに政府から支払われる1トン当たり1万7000円の補助金が農家の収入になる旨の説明がされる。目の前に広がるサトウキビ畑を男性が「まるで1万円札がたくさん生えているような感じですよ」と冗談めかして言うと、スタジオから歓声と拍手が沸き上がる。

「そやけどこの何もない島で、(そんな大金を) いったい何に使うんやろか」というナレーションにつづいて、ロケ・ディレクターが「(家は) 豪邸なんじゃないですか」と質問すると、男性は「そうでもないですよ、普通の家で。その代わり沖縄本島にも家があるので、そこに金かけています」と言う。

つづいてナレーションの「そう、南大東島のサトウキビ農家の多くは、沖縄本島にも家を持つとって、それが、島民のステータスにもなるとるらしいわ」という説明とともに、画面には白いコンクリート造りで、2棟並んだ立派な家の写真が映し出され、そこに「サトウキビ農家のステータス 沖縄本島に別荘」という大きな文字が出る。脇に小さく「イメージ」の文字もあるが、この写真とスーパーとナレーションとがあいまって、その家が明らかにインタビューに答える男性の所有物であるかのように編集されていて、スタジオからも「すごーい」「ええな〜」という声上がる。

さらに「要はハリウッド俳優がビバリーヒルズに家を建てるようなノリやで」というナレーションを重ねて、画面には山肌に立つ「HOLLYWOOD」の看板と、ビバリーヒルズにあると思われる別の白亜の豪邸の写真が映し出され、そのどちらにも「ビバリーヒルズに豪邸のノリや！」の派手なテロップがかぶさっている。

その後、話題は、先の男性がサトウキビ収穫の作業に使うハーベスタが1台6000万円もすること、それを所有することもまたステータスになっているという話に移っていく。ナレーションが「沖縄本島に別荘、さらに6000万円のハーベスタ」と言うと、画面の右半分はこのハーベスタの写真と、左半分には先ほどの白いコンクリート造りの立派な家の写真(一部)が出て、「別荘」「6000万円のハーベスタ」のテロップが重ねられて、ナレーションが「それが南大東島ドリームちゅうわけや」と締めくくる。

どう見てもこれは、この男性なり、南大東島のサトウキビ農家の多くが写真のハーベスタと別荘の両方を所有し、「南大東島ドリーム」を体現しているといわんばかりの演出と流れである。

\*

つづいて、場面は島の成人式に切り替わって、新成人の青年が登場する。「サトウキ

ビ農家の御曹司で、すでにバリバリ働いている」と紹介された青年は前歯の1本が少し欠けている。

有名ブランドのルイ・ヴィトンのバッグを手にしながら本人が言うには、年収は500万円以上で、自分のかわいい目と、うしろ髪の高い容顔が女の子にモテるのだそう。ナレーションは「ヴィトン買うより前歯治したほうがええんとちゃうか」と揶揄しながら、「ちゅうわけで、サトウキビ農家はカネも女の子も手に入るおいしい仕事やった」と、いささか下品な調子で締めくくり、このコーナーが終わる。

スタジオからは「すごーい」という歓声がひと言だけ聞こえ、番組は次のエピソードへと移っていく。